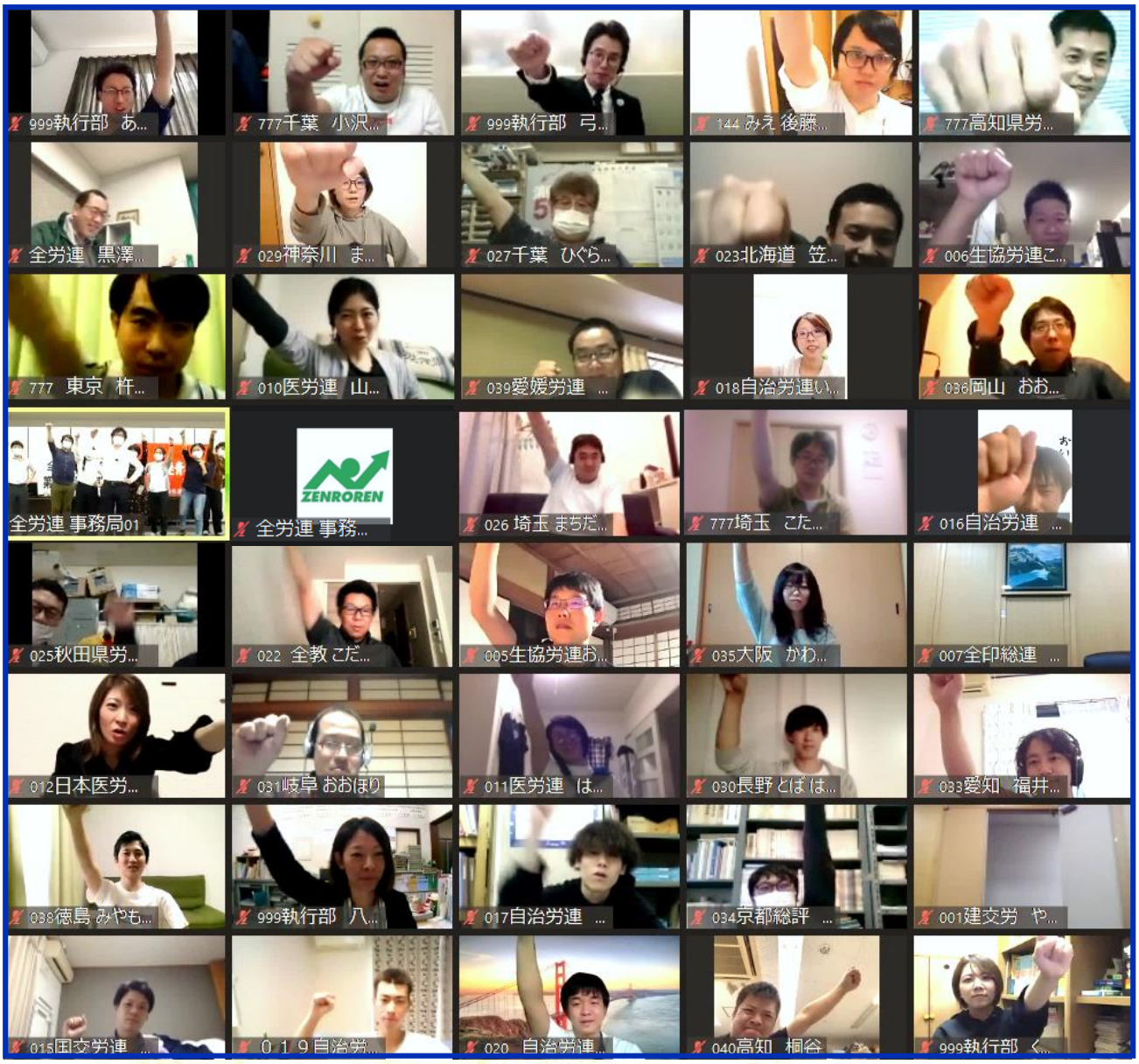
2020 年 10 月 23 日　　第 1 号

全労連青年部ニュース
YOUTH TOPIC
つながる・たたかう・支えあう青年部を
ホームページ　http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/

全労連青年部第 33 回定期大会開催!!



20 スローガン

「青年が安心して暮らせる社会を。一人じゃないよ。仲間がいる
～多くの仲間と Join join　要求実現ジャンプ in！　全国一律最低賃金！！」

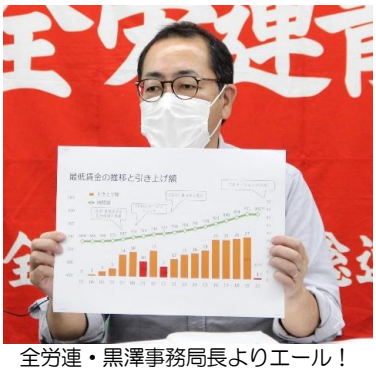
全労連青年部は、9 月 26 日に第 33 回定期大会をオンラインで開催しました。代議員・特別代議員・傍聴を含め 7 単産 18 地方組織から青年が集まり、全体で 60 人が参加しました。

いま、私たち労働組合だからできること

あいさつする笹本副部長（左上）と保科部長（右上）、
大会議長を務める加藤代議員（左下）と岩井代議員（右下）

笹本育子副部長が開会のあいさつをし、「コロナの中、労働組合の役割や自分たちに何ができるか考えた。職場の声をもっと聴きたい。オンライン開催でも、皆さんたくさん交流してほしい」と呼びかけ大会はスタートしました。大会議長として日本医労連青年協・加藤ふみ代議員と東京地評青年協・岩井佑樹代議員が任命され、オンライン大会をスムーズに進行しました。

主催者あいさつでは保科雄治部長が「コロナ禍で労働組合への注目が高まっている。一人ひとりの労働者の要求を実現するのは労働組合しかない。職場や地域の未組織の仲間に一緒に加入を呼びかけるとき。決して一人ではない、画面に映っている仲間の顔を思い浮かべながら頑張ろう」と呼びかけました。



全労連・黒澤事務局長よりエール！

来賓あいさつでは全労連・黒澤幸一事務局長が「コロナ禍の中、労働相談では様々な窮状が寄せられている。それを打開できるのは労働組合。この間一番大きな打撃を受けたのは非正規労働者。失職者の多くが女性であり、若者である。ここでしっかり声をかけていかなければならない。自分も参加させてもらった大阪や京都の最賃生活体験では、体験をとおして仲間がたくさんつくれたと感じている。私たちの様々な要求を運動が支えており、要求実現のためいかに仲間を増やすかが重要。自分の職場、身の周りの些細なことでも、一つひとつの要求実現という成功体験を全国で積み重ねていってほしい。青年部の皆さんに期待しています」と激励しました。

自らが主人公となり、多くの仲間を迎えながら活動しよう！

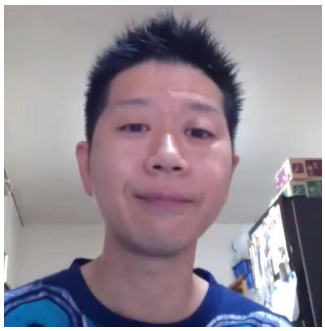
稲葉美奈子書記長と弓田盛樹書記次長が議案提案を行い、「青年が働き続けられる労働条件を求めて声を上げよう」「憲法を守り生かす社会をつくろう」「学び、つながりを活かし、組織拡大・強化を進めよう」「青年が将来に希望を持てる政治に転換を」の４つの柱に沿って、誰ひとり取り残されない社会の実現のため、より深刻になっている青年の働く実態を掴み、青年自らがオルガナイザーとして労働運動や単産・地方組織を強く大きくするため学習にとりくもう！憲法を暮らしと結びつけて学習し、語れる青年を増やそう！青年が未来に希望を持てる政治の実現を求めて選挙の際は投票を呼びかけよう！と運動方針を提起しました。

議案提案する稲葉書記長（左）と
弓田書記次長（右）

議案提案に続いて、生協労連青年部会・全教青年部・建交労全国青年部・京都総評青年部の４組織からリード発言があり、コロナ禍でさらに強くなった問題意識や、今できることを模索しながらとりくみを進めた事例が共有されました。

●リード発言●

生協労連青年部会　小谷野（こやの） 博幸（ひろゆき）　代議員



自分は非正規職員から登用試験を経て正規職員になった。同じ仕事をしていても正規と非正規の格差は大きく、「誰もが平等な待遇を受けられる職場にしてくれ」という言葉を自分に託し、非正規の仲間が退職していった。その思いに応えたいと労組役員になって活動している。

生協労連青年部会では“病まない職場、辞めない職場”をめざすことをスローガンに掲げている。コロナ禍は現場で働く青年に大きな不安と多忙化をもたらした。青年部会の幹事から「今年の新入職員は大丈夫か？」と声が上がり、「今こそ“病まない職場、辞めない職場”の精神を発揮し、声を聴くため緊急アンケートをやろう」と提起。早急に行動に移し、人との繋がりが希薄になっている仲間に「ひとりではないぞ」という想いを込めてアンケートを 700 人に送付、160 人からの回答があった。自らが動き、寄り添い、耳を傾けることが何よりも労働組合には大切なのだと青年部会の幹事全員が実感した。アンケート結果の活用法、その先を深めていく。

次年度も引き続き“病まない職場、辞めない職場”の実現をめざす。「我々は一体何者なのか」「労働組合として私たちは何ができるのか」強く自らに問いかけてきた。仲間同士で歩んできた道で、決してひとりではなかった。皆さん、業界・業態を超えて、この困難だからこそ、お互いに情報を共有し合い連携と共闘を強めて参りましょう。

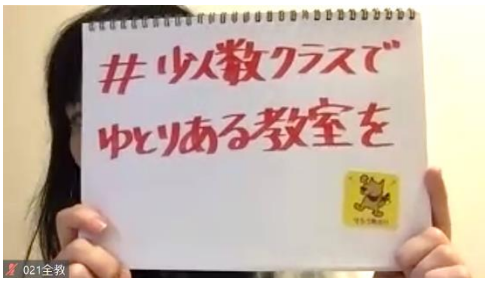
建交労全国青年部　滝澤（たきざわ） 久志（ひさし）　代議員

安倍前首相が 2 月末に学校への休校要請を突然発表し、学童へは朝 8 時からの開所を要請。現場は混乱した。常に予算を見ながらぎりぎりの配置でやっているので、結局出勤できる指導員が超勤をして穴埋めをした現場ばかりだった。

感染拡大防止の措置も求められたが、必要な物資の品薄状態が続き確保はとても難しく、保育しながらドラッグストアに走った。一番大変なとき行政からの支援はなく、自分たちで何とかするしかなかった。本当にこんな状況で子どもたちを受け入れてよいのか困惑した。プレハブで保育を行う学童もある。手洗い場が台所のシンク 1 つしかなく、そこで 30 人が手を洗おうとするとかなり大変。施設的な不備、限界も感じた。名古屋市との懇談で現場の窮状を訴えた。

学童の開所要請と同時に、多くの保護者には子どもを預けることへの自粛要請がかかっていた。学童の運営は助成金で補えない部分に関しては保護者から保育料をもらっているが、運営費はどうなるのか。結果的に、半年ほど過ぎてからその分は補填されることになったが、今財政的に枯渇している学童はかなり多い。脆弱な制度の中で学童が運営されていることが再認識できた。建交労として行政に対し、しっかり訴えていきたい。今後青年部でも、自分たちがしっかり要求していかなければ自分たちの職場が守られないということを認識しながら団結して活動し、皆さんと頑張っていきたい。

全教青年部　橋本（はしもと） 千萌（ちはる）　代議員



２月末の首相会見で唐突な休校要請があり、現場の私たちがテレビ報道で知らされたことや、議論や根拠なしにトップダウンで一気に決定されたことに落胆と恐怖を感じた。7月の全教青年部オンライン総会では全国の仲間と状況を共有。各地の不屈のとりくみに励まされた。個人ではなく組合として要求できる強み、子どもたちの最善を保障する立場である全教の強み、労働組合の存在意義を改めて強く感じた。学校再開後、授業の速度や時間は増し、子どもたちを追い詰めはしないか、数値で評価され、オンライン化の必要性ばかりで学びの本質を見落としてはいないか、立ち止まって考えることができるのは仲間と語り学び合える労働組合だからこそ。

また、昨年度実施したハラスメント調査では、ハラスメントの背景に管理強化や競争主義、もの言えぬ空気を抱えみんなが過重労働で疲弊している実態が明らかになった。自分自身も同僚も思いやるゆとりもなく、孤立と不安がある。コロナ禍で、若手の残業時間が特に深刻。「効率の悪い働き方を見直すべき」「休校期間に何を準備してきたのか」という上司からの叱責。いつでも子どもたちに通用するマニュアルはなく、私たちには子どもたち一人ひとりに寄り添う時間と心のゆとりが常に必要。そのためには正規の教職員を増やし、少人数学級の実現が何よりも重要。コロナ禍で学びの保障や感染予防のため少人数学級を求める声が広がり署名も始まっている。

子どもたちの声を聴くと、多様性に乏しく窮屈で不寛容な、大人と同じ社会に生きていること、その影響を受けやすいことを実感。学校や家庭に居場所を持てない子どもたちは本当に“不適応”や“自己責任”だけの問題か。個人や家庭への社会の支えが弱いからではないか。

もっと教育に予算をかけて、一人ひとりの学びや育ちを大切にできる社会になってほしいと思い活動している。社会全体が豊かにならなければ学校も変われないと思うからこそ、仲間と共に学び行動していきたい。

京都総評青年部　堀（ほり） 恒一（こういち）　代議員

京都総評青年部は京都医労連と一緒に7～8月に最賃生活体験にとりくんだ。京都府の最賃909円×22日勤務の計算で、税金と家賃を差し引いて1ヵ月あたり88,142円の生活費でシミュレーション。19人が参加した。コロナ禍で外出が減り出費が抑えられるので、多くの人が達成できるのではないかと考えたが、結果6人しか達成できなかった。実際に最賃でずっと生活している人は今の金額では確実に足りない。毎日が自粛生活。自分たちが実際に体験してみることで、確信となり声を上げることができるようになった。

活動はグループLINEなどを活用し、励まし合いながら進めた。この体験を形に残し、みんなに知ってもらいたいと思い動画を作成した。

（YouTube 京都総評チャンネルで視聴可 https://www.youtube.com/channel/UCNT1BHhs3SfGAtO89DxKJjg）

体験結果の集計は回答しやすいようにオンラインアンケートを使うなど工夫した。最賃引き上げの運動を青年部として各組織と共にとりくんでいきたい。最賃生活体験の参加者も広げていきたい。

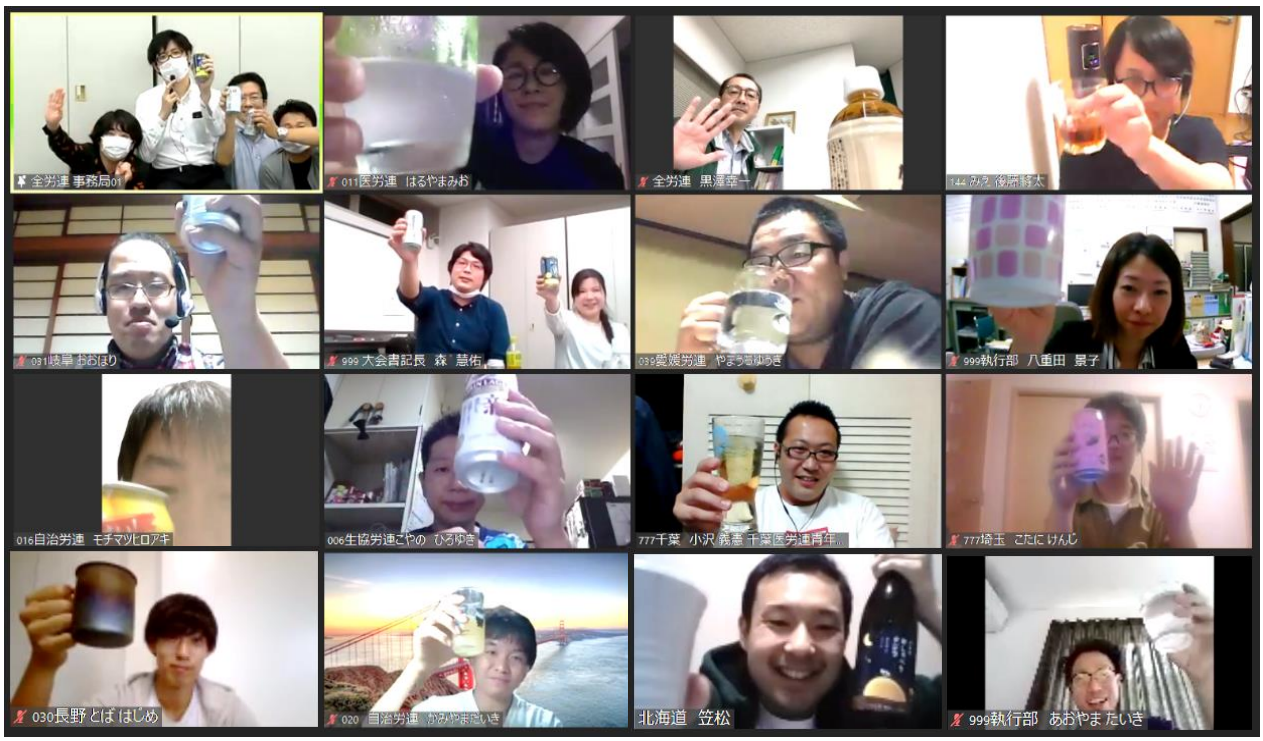
全体討論では、8名(4単産、4地方組織)から発言があり、その後分散討論を行いました。※次号（続編）で紹介します

役員体制は5名が退任し、新任5名を含む12名を選出。大会終了後はオンライン懇親会も開催され、また会う日を楽しみに交流と親睦を深めました。

大会の様子(スナップショット)

▲大会諸役員や選挙管理委員長も大活躍！
山内代議員（上）、原代議員（左下）、江田代議員（右下）

▲▶全労連会館の会場はこんな様子でした。各々の任務に真剣にとりくんでいます。



◀離れていてもリモートで乾杯♪ 笑顔のオンライン懇親会